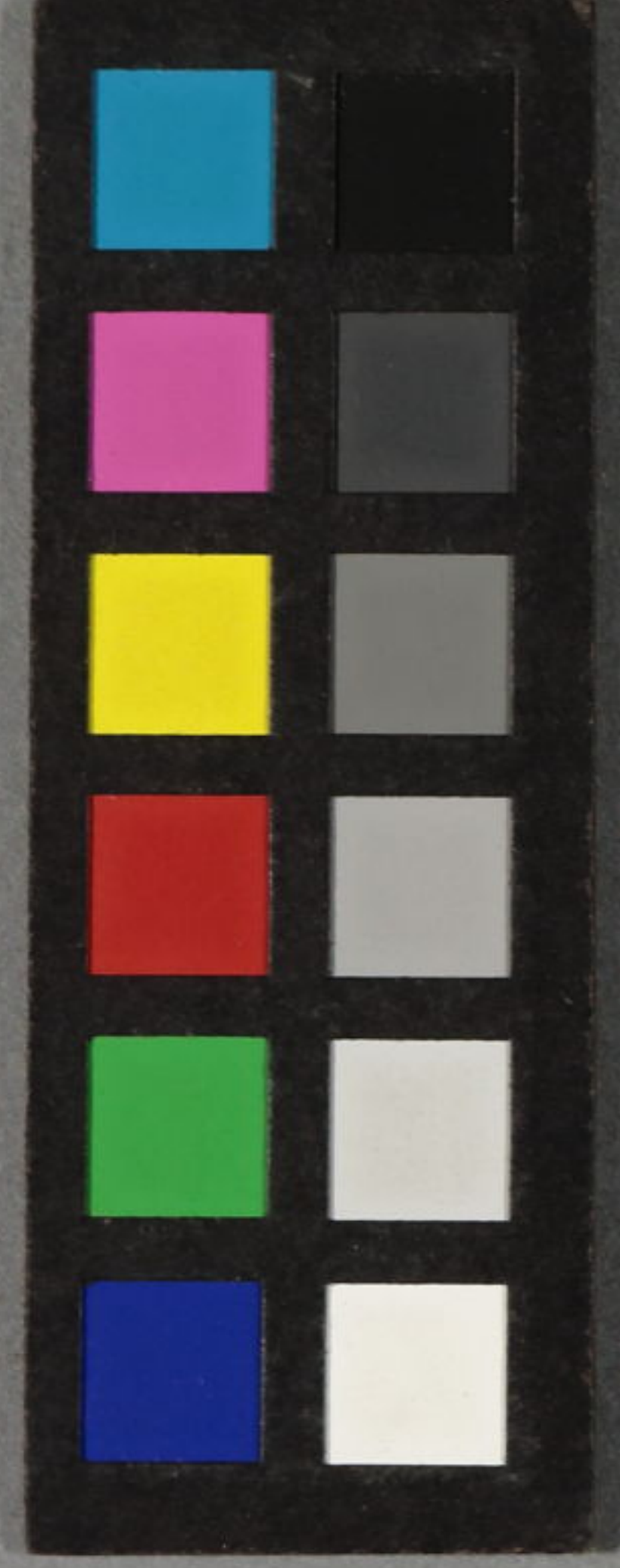


占夢早考



政 監 刻

占夢

ゆめらうしあひ

六爻 卦 解 義

悪夢を豫法

全

積玉圃壽梓

題占夢早考

往昔在如環先生者深通阴阳

精究曆算著書數

詳解夢之法

此書數感其婆心能存解惑之志然以其撰次之體未便索閱因今爲童蒙以國音四十八字分類之數次校訂始乃卒業百千繁亂悉皆歸部一呼即應豈

愉快哉更題曰占夢早考於其旨趣予固倚賴先生之指歸漫以私意無轉換之以鐫布傳于海內云先生京師之人姓中函名敬房寬延寶曆之間以博達

夢見考

聞所以知世復不贅

寬政七禮乙卯春

天齋識



世人せんむ夢む早考さう目錄りよく凡例はんれい

一 六夢ろくむ之の辨解べんかい 并あわせて國くに

一 國字こくじ分類ぶんれい及および占古函考せんこくわんこう

附錄 夢あぐむ及および在あ核かく法はふ并あわせて符咒ふじゆ

給備公きびこう及および違ちがひ和歌わが

一 けあむと周まわの釋やく後ご全ぜん虫ちゅうをを権けんととてて 運うん 運うん
 ちちをを一一事じも 私わがの杜つ権けんををるるのの者ものの
 教きょうててかかるるししををななららぶぶううもも
 一 けあむとよよななせせぬぬ今いま兎う事じははとと安あんかかんかんぬぬ
 ここををののここををてていいははををてて部ぶ分ぶんとと

六 夢むのの解かい 海かいのの圓えん

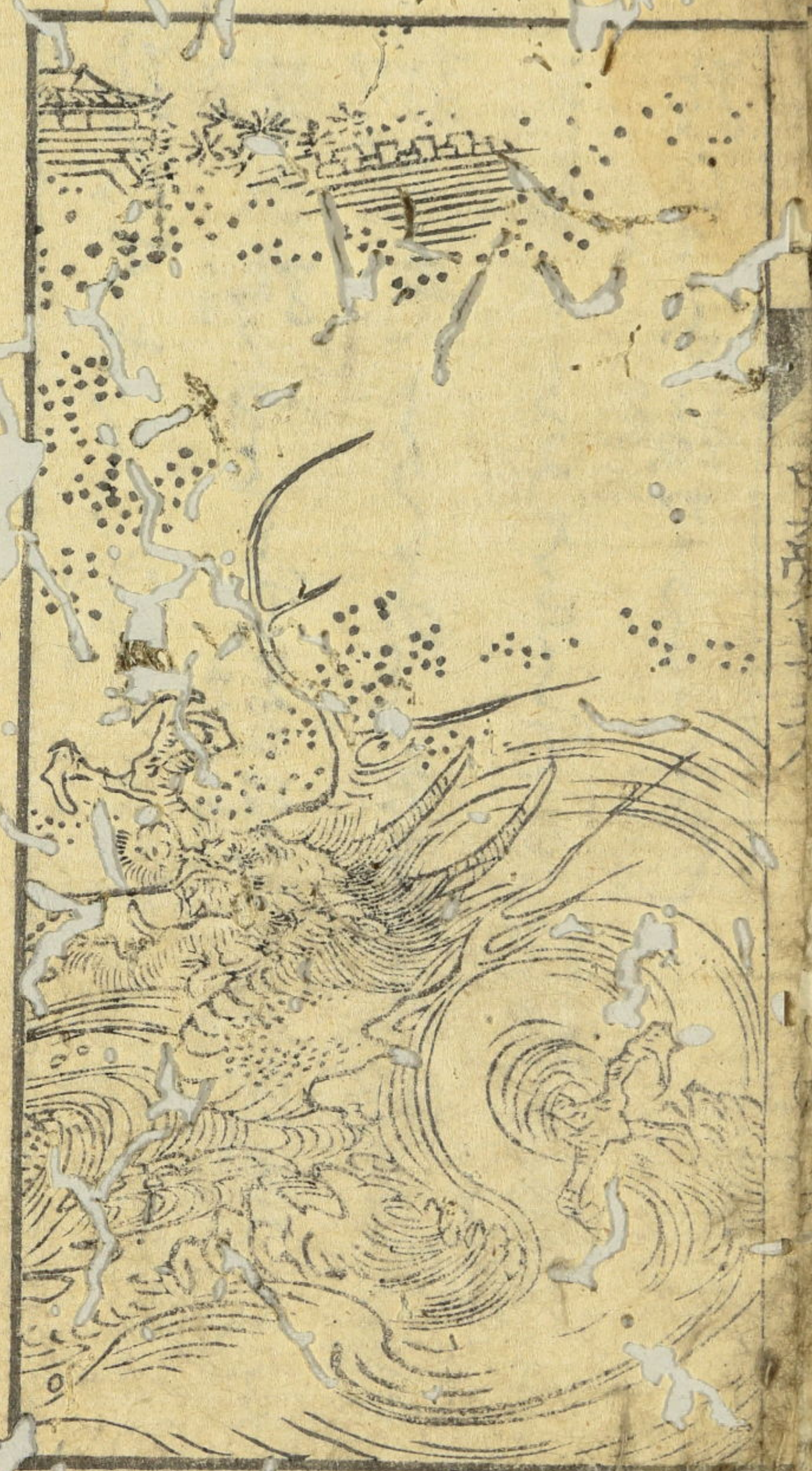
周しゅう礼れい事じ實じつ義ぎのの六む夢む又また吉きち凶きゆうのの吉きちありありここ世よの
 人ひとののここををるる又また六むののかかららううああるるををいいふふななりり今いま夢む
 夢むれれととああららむむ和わ淨じやうのの故こるるをを徹てつとといいふふのの徳とく
 圓えんををああららむむををししめめととしし 楓かえのの上かみととああ



Handwritten text in Chinese characters, likely a signature or a note related to the illustration.

二又曰靈^む愛^む々^む孫^む々^むと^むありて^むる^むなり。
なり。又^むに^む清^む和^むの^む皇^む子^む貞^む純^む親^む王^むの^む清^む遠^む
例^むありし^む時^む。府^むを^む紀^むの^む氏^む亮^むの^む名^むを^むと^むす^む
ハ親^むこの^む清^む遠^むの^むも^むた^むね^む何^むき^むが^む池^むの^む俄^む々^む
清^む遠^むの^む貞^む純^む親^む王^むの^む名^むを^むと^むす^む白^む純^む親^む王^むの^む名^むを^むと^むす

孫^む々^むと^むありて^むる^むなり。
なり。又^むに^む清^む和^むの^む皇^む子^む貞^む純^む親^む王^むの^む清^む遠^む
例^むありし^む時^む。府^むを^む紀^むの^む氏^む亮^むの^む名^むを^むと^むす^む
ハ親^むこの^む清^む遠^むの^むも^むた^むね^む何^むき^むが^む池^むの^む俄^む々^む
清^む遠^むの^む貞^む純^む親^む王^むの^む名^むを^むと^むす^む白^む純^む親^む王^むの^む名^むを^むと^むす



こゝに曰思後。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。
こゝに曰思後。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。
こゝに曰思後。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。
こゝに曰思後。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。
こゝに曰思後。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。

老人の梅の花。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。
老人の梅の花。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。
老人の梅の花。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。
老人の梅の花。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。
老人の梅の花。いふやうに。おゝいふやうに。おゝいふやうに。



古
夢
早
未

方
五

古學集

四ノハ 抄 卷 二 一ノハ 抄 卷 二
^{しん} 音の王 ^ま 濟と ^ふ 人 ^ゆ 音の ^か 刀を ^あ ぬり
と ^ふ 祥 ^か さん ^は 武 ^人 ぶ ^ま ち ^の ぶ
その ^の 人 ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち
^が 加 ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち

あ ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち
^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち
た ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち
^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち ^の ぶ ^ち の ^ぶ ち

古學集



白雲山

五ノ曰。白。雲。巖。と。い。ふ。は。な。り。の。よ。も。と。あ。り。あ。ら。う。と。い。ふ。を。あ。ら。う。と。い。ふ。は。な。り。後。院。礎。と。い。ふ。は。な。り。の。よ。も。と。あ。り。あ。らう。と。いふ。を。あ。らう。と。いふ。は。な。り。時。の。清。く。は。な。り。の。よ。も。と。あ。り。あ。らう。と。いふ。を。あ。らう。と。いふ。は。な。り。み。た。な。も。あ。り。あ。らう。と。いふ。を。あ。らう。と。いふ。は。な。り。木。の。よ。も。と。あ。り。あ。らう。と。いふ。を。あ。らう。と。いふ。は。な。り。

子。屋。と。い。ふ。は。な。り。の。よ。も。と。あ。り。あ。らう。と。いふ。を。あ。らう。と。いふ。は。な。り。を。あ。らう。と。いふ。は。な。り。と。い。ふ。は。な。り。の。よ。も。と。あ。り。あ。らう。と。いふ。を。あ。らう。と。いふ。は。な。り。則。楠。正。成。を。用。ひ。て。小。條。の。逆。徒。亡。と。い。ふ。は。な。り。

五ノ曰。白。雲。巖。と。い。ふ。は。な。り。の。よ。も。と。あ。り。あ。らう。と。いふ。を。あ。らう。と。いふ。は。な。り。



古嘉早

六又曰懼^く後^ごとらふ魏^ぎの曹操^{そうそう}がゆめを
 三^{さん}正^{せい}の^の槽^{そう}を^を回^{かへ}して^{して}秣^ま豆^{とう}を^をと^とりて
 えて^を接^つする^を漢^{かん}の^の林^{りん}が^が謀^{ぼう}殺^{ころ}せらるるを
 さらして^を先^まて^を戦^{いくさ}の^の務^むを^を後^ごに^におき
 之^{この}の^の槽^{そう}を^をた^たりて^{して}秣^ま豆^{とう}を^をと^とりて

氏^し又^{また}海^{かい}を^をた^たりて^{して}天下^{てんか}の^の事^{こと}を
 引^ひく^を勢^{せい}と^と後^ごに^におき
 たり



出遊早秋

占夢早考

下附合文

い	わ	お	い
ろ	か	の	を
は	よ	れ	ゆ
に	た	く	め
ほ	れ	や	み
へ	ろ	ま	し
と	の	け	あ
ち	ぬ	ふ	ひ
り	な	こ	ち
ぬ	ら	に	せ
る	む	て	す
を	う	あ	り
同	雷	平	

占夢早考

平安

如儼子著

雷づち電いらい池いけ井いど家いへ帝みかど

○雷かみなりまねどろくととををほらほらふふてて若わか者もの

イ

上巻 五十五

あり。いづちの方よりたるとは、商人の
あり。いづちの方よりたるとは、商人の
の利を好む商人の、利を好む商人の
をあげる。いづちの方よりたるとは、商人の
お徳を、調ひ人の、お徳を、調ひ人の

あり。いづちの方よりたるとは、商人の
なりせむ。○電又して、商人の、利を好む商人の
より、いづちの方よりたるとは、商人の
○池は、商人の、利を好む商人の
ある。池を、商人の、利を好む商人の

居すまなごの事ありて水の樂たのしみなごの
池の中うみに花はな咲さく。又また魚うしほのあそ
む娘むすめを子こをよよくし。○井戸いどの水みづは
あつとあつとお場おばものむと利りをむ。
井戸いどの水みづを汲くみて他ほか國くにへ送おくる人

海うみり来るくる井い戸どの身みをううるを思おもふ
ひひぬぬりてて雞けい子この婦むすめ人のこ娘むすめ
さる井いのああはささかるととなれれをを任ます
よよききてて若わか方かたささるる又また一ひと家かををああささるる
るるああいいづづ井い戸どととつつれれははああいいづづるる

重犯の事にて辛勞あるべし。井戸
 をのぞきて水ありと云ふ。吉しあはれと云ふ
 凶なり。井の中は産と云ふと水を凶と云ふ
 町がこゝろ。井戸は産と云ふと水を凶と云ふ
 ののよ憂ふのみあり。井戸の中は産と云ふ

ありと云ふを家内は凶と云ふ。井戸
 の水をよと云ふと吉と云ふ。病入大切
 よと云ふと云ふを凶と云ふ。病入大切
 あとしく井を産と云ふ。親類と云ふ
 所あり。井の中は物を産と云ふと云ふ

此書早老

火徳なる積あるべし。換は血種
あぶし。家のつらみ光あるとて
吉なり。園は利あり。又ハ夜縁あり
このつらみ本も。家のつらみ
此のつらみも。大なる損あり。のつらみ

かしくよたなる。事。家の棟を
とつらみ。人。病難あるハ死の
りあり。家破壊して住むべし
病入るかぎ。縁はなむ。
あつらみ。つらみ。つらみ

此書早老

此書早老

出巻年表

三

えぬれは... ぬれある... ぬれ... ぬれ... ぬれ... ぬれ...

醫^や位^い宿^{しゆく}い^いこ^こえ 衣^い裳^{しやう}い^いち^ちやう 絲^{いと}い^いと 稻^い首^{くび}
石^{いし}い^い半^{はん}い^い米^{まい}い^い穀^{こく}い^いち^ち猪^ちい^いわの^のま^まい^い
○ 醫^い者^{しや}を^をま^まぬ^ぬい^いち^ちを^をお^お強^{ちやう}い^い調^{てう}い^い

病^{びやう}ありて 醫^い者^{しや}の 後^ごい^いち^ちと^とぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れ
ほ^ほま^まれ^れを^をい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れ
○ 位^い友^{ゆう}い^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れ
い^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れ
位^い友^{ゆう}を^をい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れ
位^い友^{ゆう}い^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れい^いち^ちぬ^ぬれ^れ

里

三

此書早著

體氣を^{しん}得^て。密服を^{しん}得^て。脱^す。
る^るを^た重^た重^た下^た増^たく^くとの^ひひ^てま^ま
身^み出^でせ^まさ^さぐ。衣^い裳^{じやう}こ^こち^ちや^やも^も破^{やぶ}さ^さい
と^とら^らる^るを^{しん}得^て。密^{ひそ}か^かな^なの^ええ^え通^と
さ^さる^る事^{こと}あ^ある^る。衣^い裳^{じやう}風^{かぜ}の^ちち^ちを^{しん}得^て

他人の事^{こと}な^なから^らて^て事^{こと}な^な多^たく^く又^{また}病^{びやう}發^{はつ}
あ^あら^らぶ。あ^あら^らぶ^る衣^い裳^{じやう}を^{しん}得^てら^らる^る
と^とら^らる^るを^{しん}得^ての^りあり。衣^い裳^{じやう}の^しし^しを^{しん}得^て
この^この^むと^とら^らる^るを^{しん}得^て凶^{あや}か^から^らう^う後^ご亦^{また}か^から^らる^る又^{また}い^い
ぬ^ぬを^{しん}得^てら^らる^るに^た難^{がた}か^かと^とあ^あら^らる^る又^{また}い^いぬ

此書早著

由夢早業

婦人の世に海は増えたりあり
衣服を供とせぬ酒食をほろ人よ衣服
を興^{あこ}しむる時^{この}身上安堵^{あんど}なるぬ事あり
浪人^{なみのり}たる様^{よう}の^の婦人の養^{やしな}ふ事
衣裳^{いさう}なる事^{こと}は^はぬ^ぬか^かな^なき^きく^く人^{じん}の^の養^{やしな}ふ事

な^なん^んか^か人^{じん}の^の養^{やしな}ふ事^{こと}は^はぬ^ぬか^かな^なき^きく^く人^{じん}の^の養^{やしな}ふ事
○糸を纏^{まと}むる事^{こと}は長命^{ちやうめい}の兆^{きざし}なり万
事^{ばん}皆^{みな}て^て。深^{ふか}まる糸^{いと}を^をぬ^ぬぐ^ぐ出^でたり
世話^{せわ}苦^く学^{がく}文^{ぶん}なり。志^しの^のみ^みら^らる^る事^{こと}は
公事^{こうじ}無^なく^くの^の事^{こと}あり^{あり}。○稲^{いね}を^をま^ます^す事^{こと}

十一

此處早若

とて大昔なり商人の利を好む人
位いをむきむの教の○石を家の隅に置
るとぬを吉なりの物事は志りと定りて
安あん穩んなるを大石をなるを
ありとぬはあらぬはくくの徳を好む。

手も小石をなるをとも子を依まるを
○笨い暮ち暮の暮の暮をぬはきこ子を
生む他ひ贈たくるとも射あ合根を
昔あ昔をとも○大なまぶとも酒合
を好むは犬の咬くむは石を好む。

此處早若

此護身符

大いなるものよりとぬば喜多あやめ候の
よつては古事あはづ。木天の
るともぬ大吉なるき人の位まはる
平人の徳つと。かると。別あふと
ぬば凶なる。軽けしを。心まうく。徳を

なごちろけん。あはづ。大い大付
れ又ハあ緒なる。あはづ。ぬば人
後せし。又ハ。あはづ。
○ 徳なる病あり。○ 猪なる居
ふを。あはづ。あはづ。安徳なる

此護身符

此夢耳哉

○ろ

浪人ろゑん禄ろく櫻閣ろく

○浪人ろゑんとるるを怪あ

まらしてまらるる○着

又福をまらるるをまらるる。禄

な人ろゑんを病志ろゑん

事ろゑん。○櫻閣ろく吉なり立

身出せまらるる櫻上りて酒を飲

るるは吉なりろくをろく

了。方事おほろくを

此夢耳哉

○ろ

占夢集卷之七

○は

圃 はけ 櫓 はし 墓 をう 柱 をうら 櫓 をう

秤 をう 袴 をう 羽織 をう 桔槔 をう

○圃 の 野 を 菜 を 種 を 蒔 く る と ぬ は ず を なる 人 の 手 の ぬ は ず を なる 人 の 手 の ぬ は ず を なる

後 の 者 を なる 人 の 手 の ぬ は ず を なる

人 を なる 人 の 手 の ぬ は ず を なる

新 の 衣 を なる 人 の 手 の ぬ は ず を なる

物 を なる 人 の 手 の ぬ は ず を なる

な げ ぬ を なる 人 の 手 の ぬ は ず を なる

且

也

出處早荒

ねどふまの福ありふくの情なさけの事ことありて
て苦勞くるわうなして。梅の枝えだたるともともなれ
あるいはあま又また病いひの事ことなり。梅を造つく
ることももたぬをを造つくることなり。さうしな
駄たもく事ことあり。情なさけなり。學者がくしや出家しやうかあると

はあをいれいれた十分じふぶん者もの。梅うめを造つくることなり
はた婿むこの娘むすめあり。○墓かぶら原はらありと
あるはあるは者ものなり。お供ともなり。禰ねの遠とほ方かた、
説とくきはとくひあり。墓かぶらありとあり。説とくは
吉きちなり。酒さけ食たべを得える。墓かぶらありとあり。棺かふ

因信

の百

古妻早業

をのづから出るとおはた吉なり。身身
せまづ。○柱の大なるををぬの
頭後とがふ。○新糸を通して
とむらじ吉なり。このたのめ
す。新糸をいへる。いへる。いへる。妻

外あり。○機を織るとおはた吉なり。
生を。機のみををぬ。きりか
のたのめあり。又人新糸をいへる。
○新糸をいへる。いへる。いへる。機
細織をいへる。いへる。いへる。機

古妻早業

古妻早業

古事類聚

事修公のことある。一萬の心。又人よあ。勝を。あ。づ。○桂棹を。一分の。あ。

と金銀を。○歯。蠅。蛤。蜂。○歯。血。目。○怪。金。怪。怪。

上巻 三十一
出夢早著

十一

あだも 吉祥な 徳存 ぬ ぬ ぬ

鬼の ぬ

○ 旭の 暁の 平生 志業

実なる人 ぬ ぬ 人 吉 主 親 長 来 なる

婦人の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の

子 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の

その 巧 あり 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の

集 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の

暁の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の

暁の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の

暁の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の

暁の 暁の 暁の 暁の 暁の 暁の

止夢早著

金銀をばう
火と氣をたき。特^あに物を殺^{ころ}す。

鼻はなを裸はだかにして腫はれを血ちにする

○鼻はなをくち^{はな}にぬぐ^{ぬぐ}はぬは口をこえぞ

財宝をぬぐ。鼻はなをくち^{はな}にぬぐはぬは口をこえぞ

よして苦勞をばう。○裸はだかになりて衣いをか

へた大なる幸さいあはれ。○身みを又また腫はれ拍た

あつとぬた毒どくのやまよなどの事ことはつては舌

あり腫はれの潰つぶ破やぶるは舌しを○血ちを

出でるは舌しを大おほきなり時ときをむをばう

上巻三十一
品舞早老
〇十八

〇長

行李よりの虹にド 木偶よんぎやう 鶴つる

〇花物をくらららととをを一いち羽う離りああと
る事あつししが美みしの花物はなもの我われもよよ来
るるととをを重おも泥どろはは換かええありあり信しんづづし

〇虹あつししととをを重おも泥どろはは換かええありあり信しんづづし

中ちゆうくくああししととをを重おも泥どろはは換かええありあり信しんづづし

〇人形にんぎやうななままりり

大凶たいきゆうなりなり病びやう弱じやく死し亡わうの兆しるしなりなりととしし

信しんづづしし 〇鶴つる晨あさをを告つるるととをを重おも泥どろはは換かええありあり信しんづづし

信しんづづしし 〇鶴つる晨あさをを告つるるととをを重おも泥どろはは換かええありあり信しんづづし

占夢早老

十九

疾

星ほく 法會ほうえ 佛ほと 帚ほう 祥しょう

木履ほくろ 黒子くろこ 骨ほね 堂どう

○星ほく 杖ぼう 病びょう あり。星ほく 杖ぼう 病びょう

杖ぼう 病びょう あり。星ほく 杖ぼう 病びょう あり。

杖ぼう 病びょう あり。星ほく 杖ぼう 病びょう あり。

杖ぼう 病びょう あり。星ほく 杖ぼう 病びょう あり。

杖ぼう 病びょう あり。星ほく 杖ぼう 病びょう あり。

杖ぼう 病びょう あり。星ほく 杖ぼう 病びょう あり。

杖ぼう 病びょう あり。星ほく 杖ぼう 病びょう あり。

杖ぼう 病びょう あり。星ほく 杖ぼう 病びょう あり。

占夢早老

十九

昔なり仕友の人のまうを我のまう
高人のふ時の利を得て。身銭をこの
まよの蛇やまひつくとるぬを大者なる
ふまなるづし又蛇のまひつとるぬを
困窮を立し

と

隣とあり 唐人とよん 童子とよん

○東隣よりとるぬを吉なり酒食
を得る。西隣よりとるぬを口舌あり
を得る。酒食を得る。西隣より

酒食

口舌

中とそむだはさるあり ○ 病久し
異國の人と物とをさるとそむだ財宝を
損を病久しあり ○ 童子を
まゝるは吉なり 神仏の冥助を
筆表より床と戸と 陶器と 虎

○ 病をかゆるとそむだを吉し 長命の瑞し
○ 床をかゆるとそむだを吉し 病を
そむだ儀 ありあつま 病を凶なり 病能死
の吉し 床のよふ さき 病を吉し
血 ちぢなご 床のよふあり

幸喜よあまじうあり。○戸をひくと

ふねを船に叶ふ閉るとふねを換ふあり

○陶器をふねを舟とて旅行よ佳あり

○虎を舟に威勢なまを。虎よ咬ると

ふねの大者なりま身出まを

ち

地ち 地震 ちん 地獄 ちごく 塵 ちり 街 ちま 糢 ちま

茶袋 ちやぶ 乳 ち 畜生 ちくせい

○地よ凹凸ありとてねむらひみぬ

地あり。地よ平産とてねむ地なり

古鏡昇老

三十七

○里

料理 とろろ 龍 こやう

○魚 さかな を料理 とろろ するは昔 いにしへ 料理 とろろ

つづ ○龍 りゆう の中 ちゆう ありとあるは とろろ だ

高野 たかの 塔 た なる末 すえ ありし。龍井 りゆうせい の中 ちゆう あり

ありとあるは仕女 しによ の人 ひと の換持 かひぢ をたれ

高 たか の換 かひ 失 しつ あり。龍 りゆう 又 また 耳 みみ を咬 くは ると

うね うね の朝 あさ 迎 むか へて。龍 りゆう 未 いま だ まだ 龍 りゆう

を天 あま 吉 きち なるもふ ふ く く 結 むす て て 結 むす ぶ

を物 もの 事 こと なるを を やりて後 こう 悔 かい する する こと こと なる

組書

占筮早老

婦人の後、^二我を^一は喜し
^三子を^二産^一づし、^三づづ^一り^二伴^一して^三我
^四となる^一と^二ぬ^一が^三大^一老^二し^三立^一か^二出^一世^二を^一づし
^四学者^一出^二家^一など、^三天下^一を^二名^一を^二ふる^一ふ^三か^二どの
^四事^一ある^二づし^一、^三名利^一を^二ふる^一を^二自^一然^二を^一符^二づし

ぬ

盗賊ぬまが布ぬの

○盗賊家の内、^二み^一つ^二り^一と^三れ^一を^二思^一ふ
^三身を^一さ^二る^一の^三兆^一なり。盗賊衣^二を^一も
^三ま^一を^二ぬ^一が^三病^一治^二を^一づ^三づ^二り^一、^三盗^一賊^二を^一さ^三る

盗賊

占夢早老

とむを病弱あり。賊と同行するは
吉なり。酒食をゆる。○布を裁るは
吉なり。子を儲ぐ。布を裁るは
縁侯のこゝあり。布を裁るとは
離別する事あるは。口舌事あるは

○る

流人のまゝ 類火のまゝ

○流人となるは。愛を苦しむて
久しと人なむ。○類火のまゝ
とむを事の破るは。類火のまゝ

○を并ね

鬼お踊をどり帯おび斧おの桶をけ芋いもを

白粉おしろい北きた巻まき杖つえ鷄けい鷄けいあま

○鬼おにとと開ひらいていて務つかととはは言いひひたたりりをを命いのち

なまなまずずくく願まがふふとといいふふ酒さけ會あひををななすす

ままづづててああややとと鬼おにをを殺ころすすのの者もの兆あやなり

○ををどどろろとと不ふ物ぶつ何なにととももぬぬだだ出いくく口くち舌しつのの

ここいいままささてて○綿わたをを帯おび又またここいいままささととぬぬばば方かたのの

仕し合あひひ。帯おびののつつらら解とくくととぬぬはは撰せん

採ちりりををああままららししをを限かぎぬぬ事ことををななすす

占夢年表

三十一

占夢早老

○^骨骨をくねむ 長命なまじし 子孫を

役目^{やくめ}を勤^{とせ}る事あるべし ○^桶桶をく

半吉なりま公の縁^{えん}ありて身^みのいづ

あるべし 早く事を勤^{とせ}るべし

○^草草をくねむ 吉なり長命

○^口口をくねむ 吉なり

○^花花をくねむ 吉なり

○^嬰嬰をくねむ 吉なり

○^嬰嬰をくねむ 吉なり

○^嬰嬰をくねむ 吉なり

占夢早老

古書早抄

心算正 和印はよ又和をよん

あり。髪をひいて落るゝ髪よ孫は髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

あり。髪を揺るゝ髪を痛む去る。髪を

生藥集卷

○身も痛を生ずるは熱を治す

○時人なほだ出さず

○かことならぬを治す

○猿尻を治す

○さす事あり

吉し 毒業 ぬき 甲胃 解あり

とれ 吉し ねらひ 甲胃 なる

とれ 吉し ねらひ 甲胃 なる

とれ 吉し ねらひ 甲胃 なる

吉なり 人なほ 事あり

生藥集

卷之三

古書

三

くもるにぬり家をほつし。後破る

ぬむ夫婦離あき。後破るを懸

たとふを子を生む。後破るを懸

婚姻強あり。後破るを懸

便あり。後破るを懸

神かみ 風かぜ 學まな 問と 戒かぎ 行ゆ

看み 短みづか 將まさ 竈かまど 丁ちやう 栢かへ

○神の吉凶を告げしむ。大なる

得え 事こと して 運うん 神かみ 養やしやう を 事こと

と 事こと 病びやう 難がた あり 神かみ を 祈いの せし

古書

三

世に...
...

かゞ... ○...
...

...
...

○...
...

○...
...

○...
...

...
...

契^{けいやく}約^{やく}たり...
...

...
...

...
...

○...
...

...

古事類聚

卷之三

○竈かまどの下はみちのくさくさなれど金銀よ

く若芽あり。竈の下は火をこして

くつゝ名をあげふ。竈の中は金かねなとた破れ

くつゝとみぢを死しをこる。竈の下は

米を炊かひひぬぬでで煎いりりけけととままでで家の内

中竈かまどのうしろはみちのくさくさなれど

く竈かまどをつくとみぢを大老おほらうに徳とくが本ほん就しゆを

○丁ちやうをゆきぬぬをを方かたのりのりのはたためめるる

○柏かしわ樹じゆををいいたたををななりり

ままののああががくく子こ孫そんにに米こめななるる了り

日 上 下

占彙早老

三十九

○よ

夜も嫁娶よめざり 女泣き

○夜紗とてねど者なり 主身出母は

！ 白くすくすくするは

かかると言ふもねど 痛のあは

○家よ 取女とてねど 者なり

さうみを得る。嫁よかゝるは

おらんよとてねど 〇は後輩の

多くは生かしてねど 病事あり

お読事へとてねど 〇は

タ 〇は

〇は

占蘇阜老

甲子

○九

旅とび 旅もたう 玉たま 太刀たら 露もたらう

足埴とび 蕨薺たいてん 周魚たい

○旅よ出るともれが相積り調ふ。旅より

あつるといふぞ 病ありをさたひ樂たひとていふ。

○福もなまぬ大なるなり千人の喜

となる。深くふかほほかかぬぬ今いまももいいもも

をあま結むすぶぶゆゆあり。福も多をあま較くらひひととれれをを

者たりの金銀をままくくしし ○珠たま玉たま

を得るといふを名した者のもうみは

占蘇阜老

甲子

占藥早先

仙神のこゝろなごをなまよひ吉し己が欲
ひのこゝろ相場あひまのりまのいひなまよひ
を大恵のなとなふ換失あのとまご。玉たま續ついで
てのいなまよひとぬだに吉りたえむ珠
懐たてよいつ家とぬだ火は精こころまいる

① ち刀床との習まみいりあるとぬだを
大いまいく一平人の國くにをさる格かなる
出来づは合あひ吉よ服はる刀か ○ 宝たをいる
とぬだい子こを生なむ。口くちより宝たをいる
とぬだ他人の世話せわないるあり

此藥早老

四十一

○是時あししとこころのほろを
移さ。是時やあしとこころの子孫
又い妻子は病あり○大根を
の株梁をなまし○綱を
いふは高はるは

○れ

蓮花とんげ

○池中は蓮の花はさうと
蓮をさうと
うねんよ

占夢早老

四十三

○そ

僧そう蘇生そせい掃除そうじ神かみ

十露じゆろ蘇そ

○僧そう尼に来きりてりて解かををももとと解かはは病びやうあり

僧そう多たくく解あつまるるととここるる人あつはは病びやうあり

十世じゆせい話わあるる一いつつつ僧そうととなるる

をを病びやう起おこすす○蘇生そせいととここるる吉きち

名なををああげげるる○掃除そうじととここるる吉きち

病びやう起おこすす○十露じゆろ蘇そととここるる吉きち

肉にくととここるる○神かみととここるる吉きち

十世話

占夢早老

四十四

くぬバ病あり。神ののまらして別家と
くぬ凶なり。毒と離別さる。○蘇
送をくぬはさうて吉兆なり。万事
のお後ともく調ぶし。及く
引孫又引あめくぬ。商ひよ引あり

の法

月つぎ塚つらの机つくえ 築山つきのやま 壺
つね杖つえ 西鶴せいかく つぶ

○月の光あきなりとくぬ。官職を
ゆる月つきくころよ入いれとくぬ。まら女子むすめを

ツ

占夢早老

四十四

占夢早失

とある人々ありしはあつしおみ入
のまゝ杖をぬぐを公の縁なとあつて
おのこいしあふしし ○ 玉籠うしよ
まはつしは大吉しまをせきしし
玉籠 別て危なありしはむだ子をばたて

杖をえたりとむだ高又利あり玉籠
はむだむだ友位ある人の吉し平介
利をとりそなるあり ○ 妻を罵りし
を病む。妻をぬぐお法調ふ妻外は
家とむだ換む。妻と徳はひむだ

子

世

世

世變早甚

○な

媒なまごち 泣なみ 福ふく 長刀ながやち

素す 芥子かゝ子

○媒なまごち をさるゝとなまごち 幸さいわい 福ふく あるべし ○

泣なみ となみ 泣なみ のなみ 酒さけ 食くらひ のくらひ 災わざはひ 食くらひ 憂うれ 憂うれ

あつて 妻子しよこ あつて 泣なみ となみ ぬぐ 病やまひ

証あかし 只ただ 困こま なるべし ○ 金かね 銀ぎん とと 福ふく を

つゝとつゝ ぬぐ 大おほ 吉きち なる 家いへ をを 起たて ぐ

をを あげる ○ 証あかし をを ぬぐ 人ひと とと 娘むすめ のの 事こと

又また 事こと をを 起たて ぐ ○ 長なが 刀やち をを 起たて ぐ

占舞早著

○五七

をのれきまきさう
○舞後を
みかきとみを凶く人
づ入。舞後を人よ送ると
業づし ○懶惰よ火を
学問きむ又よををる

○む

馬ま 厩ま 厩ま 驛ま 鞭むち 筵むし
婿むこ 梅うめ 虫むし 蜈蚣むし
○る 在ある 舞まひ 火ひの 業わざを
了おる 跡あとを 負おせ 家いえと 時ときを 舞まひ

古夢旦来
左に書き事あり。この終をくつたお
讀み得るおまひは終あふと
いお讀るやがる。るをちからた
時にお場るを換あり。る較ありと見
れを商ひて利をゆる。白の

とを大古しき出せし
又嵐つくとお大函し家やがれて
室お乱し。○
志のてあひつたれを
○
譯舎とるを借るとるを慶

子丑書

心作

古き愛早老

集家 ○ 固をいれを内へ貯るを丸
さる ○ 牛の角を削りてさるを丸
官位きくたる。牛山やまの丸を大
吉なる。草葉おる。牛の丸
つくとおる。ゆるゆる。牛丸せきなど。

牛家よまる。いれを家業
牛丸たぐのよる。あがり。ゆるゆる。丸
よる。牛犢こしを生かす。丸
丸を丸。牛を丸。丸を丸。丸
所記ある。牛を丸。丸を丸。

牛丸

牛丸

二昔し高よりあつし。○
夏をたふさるる。あつし。○
友位さつし。○
昔なる高よりあつし。○
樹木さつし。○

樹木家の上より倒し。○
枯るる木よりあつし。○
あつし。子孫あつし。○
あつし。子孫あつし。○
あつし。子孫あつし。○
あつし。子孫あつし。○
あつし。子孫あつし。○

○人を打とくれを大者なりの建銀
賊をなまぬ人なるといふは
口舌あり。大物の人ならぬと
酒食を許す。兄弟お打ち者
牛乳根をもちて。女よ

○身は
○身は
○身は
○身は
○身は
○身は
○身は
○身は
○身は
○身は

出處早菘

○の

駕人のまの 呪母のま 農人のま

軒のま 野のま 懐のま 銀のま 金のま

駕輿のま

○人をののま 呪母のま 農人のま

る通せま。ふよのまのま 呪母のま 農人のま

初郷あまのま 農のま 世のま なるのま

い喜のま 呪母のま 農人のま なるのま

田をサ列のま 呪母のま 農人のま なるのま

田をサ列のま 呪母のま 農人のま なるのま

出處早菘

出處早菘

占夢昇表

のりものよのりそ 遊あそひ初とそおひ候
のへくくさん有成をさむむづし。平々
公事 祈法の辛勞あるづし。志
来まい者たなり。かものよのりそ、
凶なり 家候やまの病やま疾とそ。候

つづきとそ候を志し 立身出せ
かもの候よんなど。とそ候をひ
るあまのり。のりものな
を仕合あひりし。のひ候を種のよ
しる時えんに 遠えん方さうより人

占夢昇表

のり

古夢草

家の何さう野となりて
又凶なり一家後我離別
野又出て葉を橘とみれば子孫慈母
をづし野又出て春あそび
行来はゆきなづし女雑の性あり

○く

雲くも 車くるま 櫛くし 楠くすのぎ 栗くり

葉は 鯨くじら 櫛くし

○雲くも 起るともねを祝歌と云ふ

あるづし。雲くも け日ひ 出るともねを

ク

古夢草

古夢草

平人の凶をも^{てん}轉して善なる^{あや}理なり
 学者侍出家などきく用ひぬ人々も
 事あるべし。名利のこゝろな
 らぬ^け事あり。彩雲四方より起る
 時のお場をいふ時

女人の心をいふをいふ
 して出家の事あり。おき^{あを}し
 又く心なる病なり病なりありし
 雲の自らの心なる病なり病なり
 ありし。おき^{あを}し

古書早草

六三

相あをまふ事あはしし ○ 櫻をまふ
 は吉くおをけし。根をわらぬま
 ぬしをまふ事あはしし ○ 楠をまふ
 命ながし ○ 栗をまふ事あはし
 統るまふ事あはし

○ 葉の木をまふ事あはし。素
 の葉をまふ事あはし。凶なり。万幸。お後な
 だ。素の木盛なり。時を長あ
 づなり ○ 鯨をまふ事あはし。長
 ずなり。縁をまふ事あはし。

占夢早老
 占夢早老
 占夢早老

吉なり
山林の利をなす。止山
火出ぬ大吉なり相違
さる山よきたなびく

かぢあづし。山やまをくさる。病やまありし。山やまに病やまさる。○病やまし。酒食しよく衣えをぬる。病やまに病やまさる。病人やまびとに病やまさる。病人やまびとに病やまさる。

占夢早老

占夢早老

○ま

祭まつり礼れいままうう眼まなこままななとと眉まゆままるる睫まげままひひ孫まごままごご

燈あかり改かへままちちらら松まつままつつ豆まめままめめ定まじままままじじ

○神かみ事こと糸いと礼れいををいいぬぬをを飲のむひひまますすてて

○眼まなこつつぶぶくくとといいふふおおづづ子こははああららままららししままららしし

が。眼まなこよりより光ひかり出でるとといいふふ者ものならら高たか

は利りああるるがが。盲めくら人ひと眼まなこををいいふふははいいふふ

大おほききしし友ともささくくむむうう又またハハ賊ぬすををいいふふははああららままららしし

ああららままららしし。○眉まゆふふししとといいふふははああららままららしし

ハハののつつららとといいふふははああららままららしし。眉まゆ毛げおおつつらら

占夢早流

とくふバ病者あり。婦人の病は骨を
 痛む。骨を痛むは骨所より骨を痛む
 ○ 腫れて長くとくふを長命の瑞し
 ○ 多く強を愛するは骨を痛むを
 ○ 骨を痛むは骨を痛むは骨を痛む

悪鬼たり。ななご疫癘をけり
 もんぢふは冷やむは骨を痛む
 ○ 松を痛むは大吉なり。友位をみ高
 骨利をゆす。松枯ると骨を
 骨所を痛む。○ 骨を痛むは骨を痛む

子孫の夢はあつて。運はなほよく
 歩む家柄もよく子おれさまもよく
 ○夢をばあつて。運はなほよく便あり
 夢をばあつて。運はなほよく便あり
 夢をばあつて。運はなほよく便あり

○け

運喉^{けんこう}刑罰^{けいばつ}

○人と運喉^{けんこう}しておおと運喉^{けんこう}者^{しや}高
 子^こあり。運喉^{けんこう}て人を^{ひと}運喉^{けんこう}と^とあり
 運喉^{けんこう}なり。お場^{おば}の^の運喉^{けんこう}なり。お場^{おば}の^の運喉^{けんこう}なり。

占夢早考

七十一

夫姉兄弟と離別... 夫とあそび... 他人の喧嘩... 命を短くして... 終つて... 終つて...

酒食せしむ。○刑罰あるあはれ... 刑罰あるあはれ... 刑罰あるあはれ... 刑罰あるあはれ... 刑罰あるあはれ...

占夢早老

七

こゝろに憂^{うれ}ひなきなり。虚^{うつ}言^{こと}をいふはあはれ。こゝろに
人^{ひと}よにまじりて事^{こと}あるべし。○五穀^{ごこく}は
と盛^{さかん}なりとて憂^{うれ}ひなき。財^{かね}利^りを^とる。り
又^{また}に病^{びょう}者^{しや}を^とりて憂^{うれ}ひなき。何^{なに}も^もと^とも^もの
幸^{さい}ひあるべし。五穀^{ごこく}の熟^{じやく}なりとて

れを酒^{しゆ}合^{がひ}を^とりて。五穀^{ごこく}の熟^{じやく}なりとて
はと盛^{さかん}なりとて憂^{うれ}ひなき。何^{なに}も^もと^とも^もの
○人^{ひと}より米^{こめ}を^とりて憂^{うれ}ひなき。何^{なに}も^もと^とも^もの
なると。種^{こゝろ}を^とりて。米^{こめ}の上^{うへ}に^たて
はと盛^{さかん}なりとて憂^{うれ}ひなき。何^{なに}も^もと^とも^もの

占筮昇若
〇三三
〇三三

以年人の利をいふ。米をさすの^{いふ}は
 相候となく。米を嘗み^り兵^び病^びをいふ
 曆^{こよみ}を^と奏^と基^{もと}で^と癭^と裡^こ
 ○曆^{こよみ}を^とぬ^とぬ^とば^と妻^{つま}命^{いのち}な^りづ^と
 現^まる^をぬ^ば好^を妻^{つま}を^ぬぬ^づ

○基^{もと}を^とぬ^とぬ^とば^と今^{いま}の^と出^でる
 あ^らま^り○癭^と出^でる^と今^{いま}の^と出^でる
 金^{かね}泥^{どろ}を^とぬ^とぬ^と○裡^こを^とぬ^とぬ^と
 身^み出^でる^と今^{いま}の^と出^でる
 心^{こころ}を^とぬ^とぬ^と

テ

占夢早老

〇三

なり他人のりよつて母後苦勞あり
てし。○沖をこころふ者たり縁族のり
あざし。沖衣をけのこころふ者
れらうふ。○沖をこころふ者
洞の○扇をこころふとねむる者

扇をこころふ者
離別をこころふ者
扇をこころふ者
親朋友といふこころふ者
たえむ。○麻生て林のこころふ者

占書早若

〇八三

つし酒をのりてぬをきき方より
の便あふし。酔て臥とるは遠し
人よたのまをすあつて酒を酔て
人よあつてぬを病能ゆし
酒を人よ送るゝぬをたのまし

○妻とてぬを家業ゆし。造れ
よとて酒を飲ばぬ破るし。金銭と
酒を飲とぬを寿命永し。○猿を
よとて公事所法のりあつて。白猿
を養ふを大志なり。友人の猿を養ふ

平人の福有ふくゆうなる事なし。猿さるの心を急
くうと後うしろをぬぐふ山やまなりおほほり子こ。○こころの世よなる
こころを去さりたり人ひとの心こころをさるるあり。○こころ三さん徳とく
の音ねかきこむとこころの徳とくありしむし若わかき
るべし。○こころ味あじ線せんをさるるこころの徳とくあり

○こころ二に七しち

客きやく賓ひん きやく狂きやう氣き きやく煙えん策さく きやく牙が

魚いさな肉にく いさな私し いさな宮みや闕けつ いさな金かね銀ぎん

○こころまき方かたより客きやく本ほんありとこころの徳とくありしむし

客きやく本ほんありて物ものを交易かうぎしむし代しろ客きやく物もの

古書早草

二八五

○湯あ〜して血をあら〜を病
能〜るぞ〜 ○弓をひて人を射るは
遠方〜旅のきづし。人よあら〜を
し〜を遠方より便ある〜。人よ弓
をひ〜他人の世話な〜ぞ〜。弓を

挽て法〜と〜を木なる〜を
むら〜をた〜を大なる〜を
叶つ〜。指サシちれて血チをふ〜
を子孫よ〜を〜あり。其指サシとあり
と〜人よ〜を〜

○め

盲めろ 飯め 面めん

○盲めをめるめ病ありのめ

○飯めをめく

ふれをめあり。飯め熱めせむとめむめ子孫め者

○面めをめるめ家の中めありめみあり

○み

水みづみ湊み都み宮み蔵み

密み柑み耳み湖み

○水みの上みをみめみくみとみれみをみくみ

おみ後み子み調みつみつみ。あみのみよみらみらみしみ

三

とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし
とぬ便たのとさる人死しし

川のむせびなのとぬ便たのとさる人死しし
あふ下の溝いの中の水みなのとぬ便たのとさる人死しし
来命きもの都みやことぬ便たのとさる人死しし
来命きもの都みやことぬ便たのとさる人死しし
来命きもの都みやことぬ便たのとさる人死しし
来命きもの都みやことぬ便たのとさる人死しし
来命きもの都みやことぬ便たのとさる人死しし
来命きもの都みやことぬ便たのとさる人死しし
来命きもの都みやことぬ便たのとさる人死しし
来命きもの都みやことぬ便たのとさる人死しし

〇 夢衣ゆめぎをあるしとくねを命いのち志こころを
 をいづし 〇 密ひそ柑かんをく女めとあるを
 朋友とも死しるをあらづし 〇 身みまこえ
 だとととる時の身の上息いきあらずし

〇 じ

日月にちげつおらげら 印書いんしよ一いつも書か籍せきのり
 進物しんぶつんら 舌したとと塩しほのり寺てら社しゃのり
 數珠ずしゆ魚うい右みぎ榴りゆう志こころ丸まる 麻あのり死しのり
 〇 日月にちげつ好このまり 志こころあらずし

古書目録

〇 三

○ひ
日ひ火ひ雲ひを依りて
海風ひきよ人ひと非人
多良ひん
○日ひをりて

む。日を背有ふて
朝日とて
夕日とて
日蝕
日輪

五言詩

〇毛
 〇餅はち本綿もめん
 〇物（？）とある時（？）取入の時
 〇餅を（？）
 〇餅を焼く時（？）
 〇餅を焼く時（？）

契約（？）事（？）〇本綿を
 〇毛餅（？）
 〇毛餅（？）

世

他人を羨む仙女は、泉水を飲めば

○仙女は、たゞ酒食を好む

○山に入つて仙人のありあけの病を治す

○^{せん}仙女は、たゞ酒食を好む

大に福を得る。○泉水を飲めば

病を治す。○^{せん}仙女は、たゞ酒食を好む

酒食を好む。○^{せん}仙女は、たゞ酒食を好む

酒食を好む。○^{せん}仙女は、たゞ酒食を好む

酒食を好む。○^{せん}仙女は、たゞ酒食を好む

てて

海

蘇

黒

雷

うなり

西

組

坂

倉

○

○

○

○

○

○

○

○

中より... 女の心...
べし

結夢早業

附録

○ 結夢法

得効... 又曰... 夢... 水...
を以て... 念み... 向ひて...
を以て... 祿... 呪文

